

## ガス料金の現状について



習志野市企業局

令和4年5月25日 習志野市公営企業運営協議会説明資料  
企業局 業務部



## 原料費調整制度について

### 1) はじめに

#### ①原料費の動き

ガスの原料費は、為替レートや原油価格などの動きによって変動。

#### ②ガス料金へ反映

ガス料金は、原料費の変動を料金に反映させている。

#### ③平成8年度から

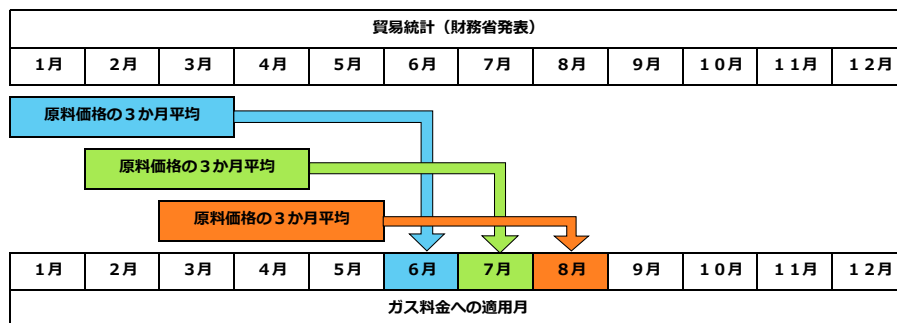
この制度は、平成8年から政府主導のもと全国の電力事業者やガス事業者が導入。

## (2) 目的・効果

- 原料費の変動を料金に反映させることにより、経営成績を見る上で原料費の変動が外部化され、ガス事業者の経営成果が明確化。
- ガス事業者の経営環境の安定を図る。
- 制度開始当時は、円高で原料費が安値で推移しており、それを消費者還元の見点から値下がりを促す目的もあった。

## (3) 制度のしくみ

財務省が毎月発表する貿易統計（1か月あたりの原料輸入価格）に基づき、その3か月平均と基準となる原料価格（基準平均原料価格）を比較し、その変動分を算定期間の最終月から3か月後の検針分に反映。



- (1) 輸入される原料は、為替の影響を受ける。
- (2) 日本国内に輸入される原料は、5年以上の長期契約によるものと、5年未満のスポット契約によるものがあり、7割から8割が長期契約、2割から3割がスポット契約

### ①長期契約⇒原油価格に連動して変動

なお、原油価格は需給要因で変動する。

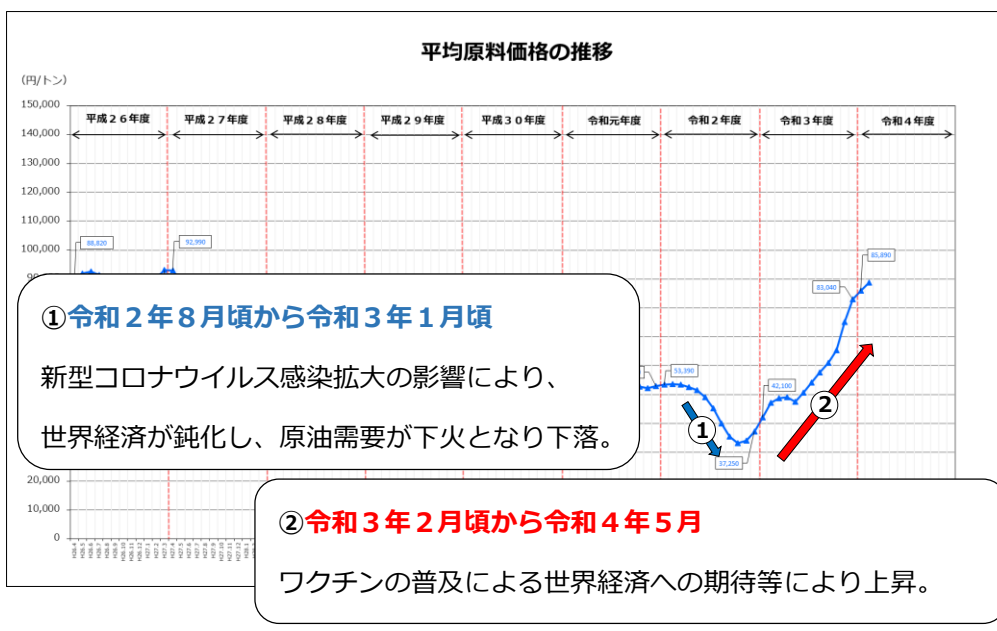
供給側 = 産油国の稼働状況

需給側 = 景気回復・鈍化、暖冬など気温変動

### ②スポット契約⇒需給要因で変動

供給側 = 天然ガス供給国の稼働状況

需給側 = 暖冬など気温変動、再エネ発電の稼働状況



- 原油価格** = 高値で推移している⇒ガス原料費の値上がり
- LNG需要** = 高まっている⇒ガス原料費の値上がり
  - 中国** = 電力需要の増加、脱炭素（石炭火力からLNG火力への転換）で需要が高まっている。
  - ヨーロッパ** = 脱炭素、風力発電の不調で需要が高まっている。
- ウクライナ侵攻の影響**
  - 経済制裁でロシア産の原油・石炭・天然ガスを各国が輸入しないとした場合、世界的に供給量が減少し、価格が値上がりする。  
（精密機器部品などの原料となるレアメタルも同様）

**ドイツ** = ロシアからドイツを経由し、EUへ天然ガスを送るためのパイプライン（ノルドストリーム2）が完成したが、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、ドイツはそのパイプラインの使用承認を見送った。

- 為替レート** = 円安が進む⇒ガス原料費の値上がり

### まとめ

**今後のガス原料費⇒値上がり要因が多い**

新型コロナウイルス感染拡大の影響による収入減や、原油・天然ガスの値上がりによる支出増がある中、料金の値下げや減免を求める声もある。

しかしながら、

○公営企業の料金は、地方公営企業法の規定により公営企業の健全な運営を確保することができる適正な価格を設定している。

**つまり⇒ 料金の値下げや減免をすると、将来の施設更新や耐震化に必要な財源が不足することとなる。**

**ご清聴ありがとうございました。**



# 平均原料価格の推移

(円/トン)

